

# ホクコークレマート®U粒剤

■種類名：ブタミホス粒剤  
 ■有効成分：ブタミホス-----3.0%  
 ■PRTR法指定物質：ブタミホス〔第1種〕-----3.0%

■登録番号：第14650号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)  
 ■登録初年：1981.07.24  
 ■性状：灰白色細粒  
 ■有効年限：3年  
 ■包装：3kg×8袋

## 【特長】

- メヒシバなどイネ科雑草に卓効を示す土壌処理剤。
- 雑草発生前に散布することにより高い効果を発揮する。
- 様々な野菜に使用可能で、使いやすい畑作園芸用除草剤。

## 【適用内容】(2019年10月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタミホスを含む農薬の総使用回数				
たまねぎ	一年生雑草	春播栽培の定植後(雑草発生前) 但し収穫60日前まで	5~7kg/10a	1回	全面土壌散布	1回				
		秋播栽培の定植後又は 春季の雑草発生前 但し収穫60日前まで								
すいか 漬物用すいか メロン 漬物用メロン		定植・マルチ前 (雑草発生前)								
キャベツ		定植前~定植直後 (雑草発生前)								
トマト		定植活着後(雑草発生前) 但し定植10日後まで	4~6kg/10a		畦間株間 土壌散布					
ねぎ わけぎ あさつき										
やまのいも さといも にんにく										
らっかせい にんじん		は種後発芽前(雑草発生前)	全面土壌 散布							
パセリ	一年生 広葉雑草									
こんにゃく	一年生雑草	植付後又は培土後 (雑草発生前) 但し収穫120日前まで	8~10kg/10a	3回 以内	全面土壌 散布	3回 以内				
かんしょ		挿苗後(雑草発生前) 挿苗3日後まで								
きゅうり		定植前(雑草発生前)								
		定植後(雑草発生前) 但し定植10日後まで								
きく		定植後(雑草発生前)								
つつじ類 さざんか		植付後又は生育期 (雑草発生前)								
桑		春季桑発芽前および 夏季収穫後発芽前 (雑草発生前)								
たばこ (折衷マルチ栽培)		植付10日前まで (雑草発生前)					4kg/10a	1回	全面土壌 散布	1回
ばれいしょ		植付後萌芽前 (雑草発生前)					5~6kg/10a			
にら		定植後(雑草発生前) 但し定植10日後まで					4~6kg/10a			
やまのいも (むかご)	植付後萌芽前(雑草発生前)	4kg/10a								
くわい	植付後出芽前(雑草発生前)	5kg/10a	湛水散布							

作物名	適用 雑草名	使用時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用方法	ブタミ叔を 含む農薬の 総使用回数
せり	一年生 雑草	親株養成期(雑草発生前)	3~5kg/10a	1回	湛水散布	1回

#### 【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草発生前の効果は大きいが発生の雑草には効果が劣るので、必ず雑草発生前に全面に均一に散布すること。
- 多年生雑草およびキク科雑草およびツユクサには効果が劣るので、それらが優占する圃場での使用はさけること。
- 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣るので土壌が適度の水分を含んでいる時に使用すること。
- こんにやく、らっかせい、かんしょ等に使用する場合は、とくに碎土、整地、覆土は、ていねいに行つて均一に散布すること。
- 作物の生育中に散布する際は、できるだけ薬剤が作物にかからないように注意すること。
- 桑に使用する場合、桑葉にかかると葉害を生ずるので、給桑葉のない春季又は夏季収穫後の桑の発芽前に散布すること。
- たばこに使用する場合、葉害を生じることがあるので、植付時に処理土壌が茎葉に接触しないように注意すること。またトンネル栽培および改良畦面栽培では使用しないこと。
- キャベツの定植直後に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ◆ 降雨または朝露等により葉面が濡れている状態では使用しないこと。
  - ◆ 極端な深植えでは使用しないこと。
- くわい、せりに使用する場合、砂質土壌の水田や漏水田（減水深2cm/日以上）への使用は避けること。また、散布後少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないこと。
- 散布の際、付近の他の作物にかからないように注意すること。
- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。  
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 本剤による中毒の治療法としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の併用投与が有効であると報告されている。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
また、粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養殖池周辺での使用は避けること。  
水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。  
散布後は水管理に注意すること。  
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。